

桜川市真壁町上谷貝

鹿島神社本殿

茨城県指定文化財 鹿島神社本殿で
茅葺屋根の修理工事が始まります

いよいよ1月から鹿島神社本殿の修理工事がはじまります。

このコーナーでは修理の様子や神社の特徴や歴史についてご紹介していきます。

【第1回】歴史を語る棟札

一般に神社の由緒というのは、千年ほど前の平安時代にさかのぼるものが多く、真壁町上谷貝地区の鹿島神社では承平2年(932)とも応保2年(1162)とも伝えます。

関東地方に残る古文書で千年以上さかのぼるものは非常に少なく、桜川市でも最も古くて鎌倉時代、数が増えるのは江戸時代なので、各地区に神社が創建された頃の具体的な状況はよく分かりません。その代わり、神社創建の伝承などが残ることが多く、そういう物語から当時を想像することになります。

さて、建物を建てる時に棟札という木札を納めることが多くありますが、修理の際にも多くの納められています。棟札には建築年月日、施主名、大工名などを記します。

この棟札が鹿島神社には数多く納められており、貴重な資料となっていますので、古い年代を記すものから今回は3点をご紹介します。

一 鹿島神社再建棟札（一二六六）

文永三季 常陸國真壁郡野外村鎮守御遷宮

神主藤田庄太夫藤原種光

奉再建鹿島太明神宮 一字天下泰平社頭康榮郷里安全氏子繁昌祈禱

丙寅

十二月吉日 惣民氏子中寄進

二 鹿島神社再建棟札（一五七三）

天正元年癸酉年 常陸國真壁郡真壁谷貝村惣鎮守遷宮

神主藤田圖書之助藤原種總

奉再建鹿嶋太明神宮 一字天下泰平社頭康榮領主安全氏子繁昌祈禱

九月十九日 真壁大守真壁安藝守平朝臣家幹入道道無卿御寄進

三 鹿島神社再建棟札（一六九一）

元祿四辛未年 常陸國真壁郡真壁上谷貝村惣鎮守 藤原種充

遷宮 神主 藤田和泉守

奉再建鹿嶋太明神宮 一字天下泰平社頭康榮郷里安全氏子繁昌祈（禱）

十一月吉日 惣而寄進稻葉斎宮殿信心 世話代官所 廣瀬新八〔一〕

これらの棟札が、再建や修理された当時のものなのか、後年に書き写されたものなのかは、よく検討しないとなりませんが、鹿島神社や上谷貝地区の歴史を知る上で、とても大切な内容を示しています。

最も古い年次は文永3年(1266)と記されており、惟康親王が社地を寄進したという伝承と呼応する内容になっています。詳細は分かりませんが、鎌倉時代中期の谷貝地区における支配関係の変化が、伝承として伝えられているかと想像されます。

次の天正元年(1573)のものは真壁家幹の寄進とあります。法名を道無と記していますが、道無は真壁久幹の法名なので、書き写す時に誤ったものかと思われます。現在の本殿の一部の部材は、この頃とも推測されているので、天正元年頃に再建や修理があった可能性は少なくないと思われます。

3つ目の元禄4年(1691)のものは、現在の本殿の建築様式と合致する年代ですでの、この元禄4年再建の本殿が修理を重ねて300年以上、守られてきたことが分かります。